

## 互いに励まし合うこと

**鍵となる聖句：**「互いに愛と善行を励ますために、互いに気遣い合いましょう。」

ヘブル人への手紙 **10:24**

**選読箇所：**

ヘブル人への手紙 **10:22-25**

通常、「励ます」という言葉は、怒りや悪意をかき立てることを指すのに使われます。しかし、この鍵となる聖句において、使徒はこの言葉を、善への促し、すなわち愛と善行におけるクリスチャンの成長を促すことを表すために用いています。この表現の別の訳し方として、「互いに励まし合う」というものもあります。

互いに愛と善行、すなわち行いに励まし合うことこそが、主の弟子たちが集まる際の真の目的です。私たちは皆、同じ尊い信仰を持つ者たちとの交わりから得られる助けと励ましを必要としています。また、使徒は、「その日が近づいているのを見る」につれて、兄弟たちとの交わりがますます不可欠になることを強調しています。ヘブル人への手紙 **10章25節**

愛と善行に向けて互いに適切に励まし合うために、使徒はまず「互いに配慮し合う」必要があると指摘しています。これは、他者の試練、困難、弱さを思いやり、彼らに対する心の共感を育む必要があることを意味します。「互いに励まし合い」、愛と善行へと向かわせるというこの勧告には、

美しい霊的なバランスが示されています。愛も善行への熱意も、互いに切り離して考えることはできません。真のキリスト教の愛は、善行として現れない限り存在し得ません。また、真のキリスト教の愛の成果あるいは現れでない限り、主の御目には善行と見なされる行いも存在し得ません。

善行は、使徒パウロによって別の箇所では「愛の働き」と表現されています。（テサロニケ人への手紙第一 1:3）。これは、真の愛が「労する」、すなわち働くことを示しています。そのような愛は、神に喜ばれることだけで十分であるかのように、愛の行いを伴わない単なる優しい気質ではありません。私たちのクリスチャン生活を満たし、支配すべき愛は、神の愛、すなわち墮落した人類に対する天の父の態度の中にあり、その父が持ち、模範を示された愛です。神は、墮落した人類をこれほどまでに愛されたため、神が与えることのできるものの中で何よりも大きな代価を払って、御自身の独り子であり、深く愛された御子イエスを与えてくださいました。（ヨハネ3:16）。イエスにおいて、私たちは真の愛と善行が完全に融合した模範を見ることができます。もちろん、私たちは救い主が行われたすべての行いを実行することはできませんが、可能な限りすべてを行うように促す精神を養うよう努めることはできます。

新約聖書で「交わり」と訳されているギリシャ語「コイノニア」は、「パートナーシップ」を意味します。（ガラテヤ人への手紙2:9、ピリピ人への手紙1:5、ヨハネの手紙一1:6,7）。クリスチャンの交わりとは、単に集まって共通の信仰について話

し合うこと以上のものです。互いに集まろうとするその願いは、罪に呪われた人類の世界を啓蒙し救うという神の偉大な計画において、神と共に働く者として神に召されたという自覚から生じるべきものです。コリント人への手紙第二 **5:17-21; 6:1**

パウロは、私たちが分かち合うよう招かれた働きを強調し、次のように説明しています。「神はキリストのうちにあって、世をご自身と和解させ……私たちに和解の言葉を委ねられました。それゆえ、私たちがキリストの大使なのです。」（**Ⅱコリント5:19,20**）。これは、もし私たちが死に至るまで忠実であれば、失われた人類の世界を神のもとへと和解させるという偉大な働きに、私たちの頭であるキリストと共に参与することを意味します。これは、主に従うすべての者がパートナーとなる共通の働きです。この大義に関連して、互いに忠実であるよう「促し」あるいは「励まし」合うことは、私たちが集まる際の第一の目的であるべきです。